

5-2 利用データと前提条件の整理

「研究者数」は、科学技術調査報告の「研究本務者数(自然科学系)」を用いており、「研究者数の年齢構成」は、国勢調査の職種別年齢別人口を用いている。

表 5-1利用データと前提条件一覧

	項目	定義	実績	将来予測
A	実 質 GDP	実質 GDP	内閣府	平成 15 年 1 月 20 日経済財政諮問会議提出資料
B	年 齢 別 人口	我が国の年齢別人口	国勢調査および推計人口 (総務省)	国立社会保障・人口問題研究所(中位推計)
C	研 究 者 総数	自然科学の研究本務者合計(大学については教員のみ)	科学技術研究調査報告 (総務省)	(供給と需要別に予測)
D	研 究 者 年齢 構成比	研究者の年齢構成	国勢調査(職種別)における科学研究者(自然科学) + 大学教員(自然科学相当分推計)の年齢構成比の加重平均	(供給と需要別に予測)
E	学 部 入 学率	理系学部入学者数 ÷ 18 歳人口	B の人口および学校基本調査(文部科学省)における理系学部入学者数	H14 の数値のまま一定、あるいはトレンドで増加。
F	修 士 入 学率	理系修士専攻入学者数 ÷ 22 歳人口	B の人口および学校基本調査(文部科学省)における理系修士専攻入学者数	修士入学率 ÷ 4 年前の学部入学率が H14 の数値のまま一定、あるいはトレンドで増加。
G	博 士 入 学率	理系博士専攻入学者数 ÷ 24 歳人口	B の人口および学校基本調査(文部科学省)における理系博士専攻入学者数	博士入学率 ÷ 6 年前の学部入学率が H14 の数値のまま一定として推計。
H	学 部 卒 研 究 者 奉職率	理系学部卒業者のうち、進路が科学研究者または大学教員のもの	学校基本調査(文部科学省)	H14 の数値のまま一定。
I	修 士 卒 研 究 者 奉職率	理系修士修了者のうち、進路が科学研究者または大学教員のもの	学校基本調査(文部科学省)	H14 の数値のまま一定。
J	博 士 卒 研 究 者 奉職率	理系博士修了者のうち、進路が科学研究者または大学教員のもの	学校基本調査(文部科学省)	H14 の数値のまま一定。
K	年 齢 別 研 究 者 残 存 率 R	時間経過して研究者が 残存する割合 (年齢別)	国勢調査(職種別)における科学研究者(自然科学) + 大学教員(自然科学相当分推計)の年齢構成比の推移から計算	過去の実績を元に複数シナリオを設定

H～J 「補正係数」を乗じて調整している。5-5-2節を参照のこと。

K 20～29 歳は 100%とした(大学からの供給は別として、増減はない。)。5-5-3節を参照のこと。

C、E～J 理系:理学、工学、農学、保健